

宮田直彦のエリオット波動レポート

マーケット見通し(短期アップデート) 3 月 14 日 10:55AM 更新

[日経平均]

【当面の想定レンジ】 35,000～38,700 円

[NY ダウ・S&P500]

【当面の想定レンジ】 (NY ダウ) 38,000～42,000 ドル
(S&P500) 5000～5740

[ナスダック]

【当面の想定レンジ】 15,700～18,500

[米ドル/円]

【当面の想定レンジ】 139.000～154.000 円

[ドルインデックス(ドル指数)]

【当面の想定レンジ】 99.578～108.523

エリオット波動とは

株式・為替動向を予想する心強いテクニカル手法

米国人ラルフ・ネルソン・エリオットが提唱した、今後の株式や為替など市場価格の動向を予想する手法です。相場は5つの上昇波と3つの下降波（合計8つの波）で一つの周期を作るパターンに従って展開するとされます。

このパターンは集団心理によるもので、数分から数十年といった様々な時間軸において観察されます。

フィボナッチ数列、黄金分割比率をチャート分析に初めて導入したのもエリオットです。

日経平均



【週足 エリオット波動分析】

年内に日経平均は、インターミディエイト級第(5)波の上昇によって最高値を更新するでしょう。そのターゲットは[4万3000円-4万5000円]です。

この第(5)波上昇を以て、コロナショック底以来5年間にわたる強気相場(プライマリー第③波)は完成し(『黄金の3年間』完結)、その後はプライマリー第④波による停滞局面に移るでしょう。

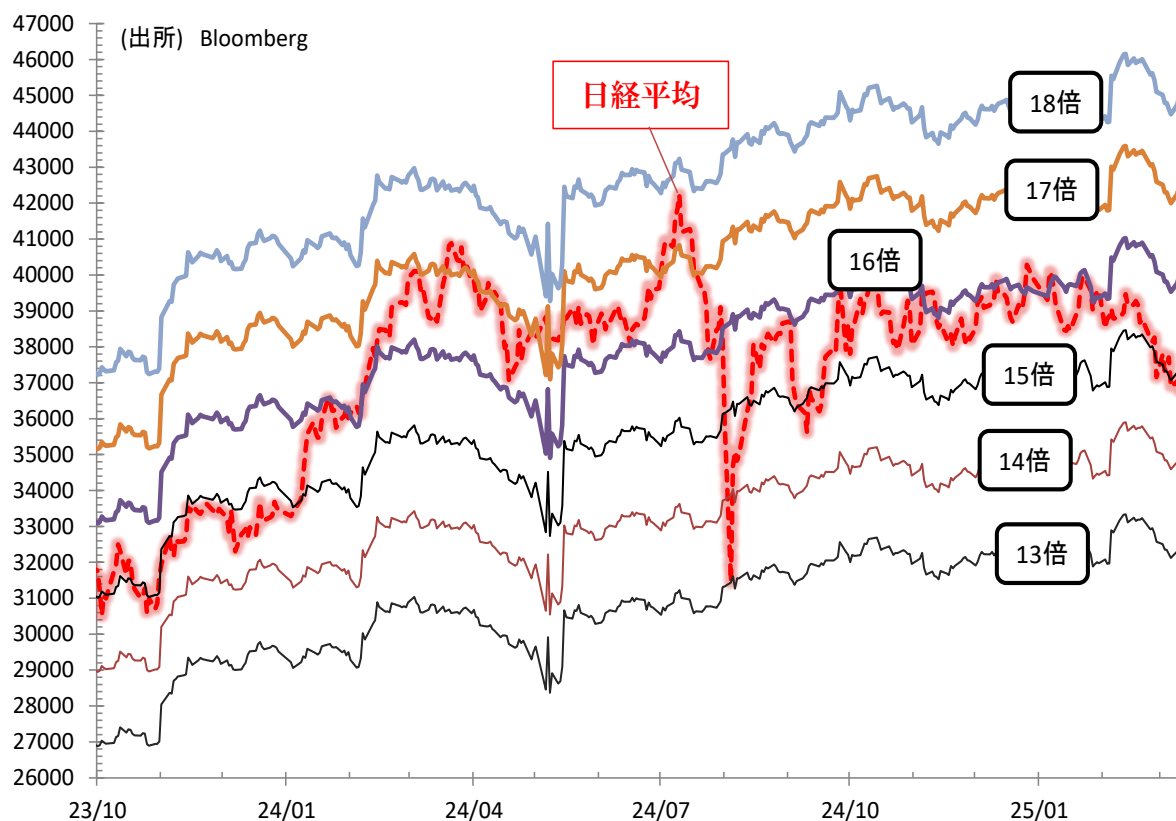
24年7月以来のインターミディエイト級第(4)波の調整は続いています。第(2)波が「ジグザグ」だったことから、オルタネーションに則り、第(4)波形状は「トライアングル」、「フラット」、などの保ち合い型になるでしょう。年初から(4)-C波による下落が進行中とみられ、**3月中にも(24年8月底に次ぐ)二番底を付けるでしょう**。この二番底は、第(5)波上昇トレンドの(事実上の)開始点になると思われます。

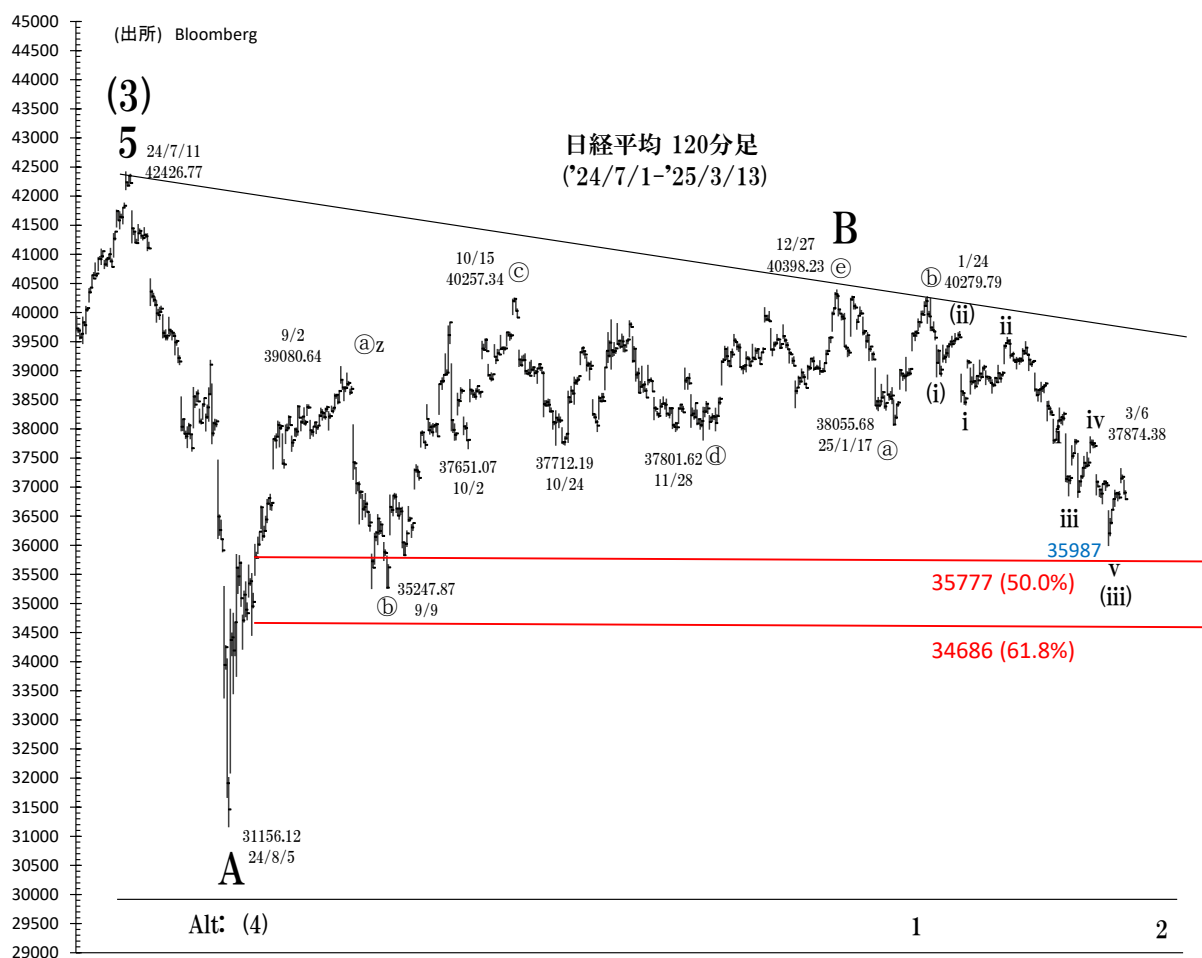
ところで日経平均に比べ、TOPIXの底堅さが目立っています。日経平均のC波はイメージ通り下げ幅を広げてきましたが、TOPIXの下げは浅いものとどまっています。TOPIXの波動カウントは現在再評価を行っており、今後タイミングをみながら公開します。



[予想 PER 別の日経平均水準]

日経平均予想 EPS は 2477 円(3/13)。過去最高は 2564 円(2/13)です。





【時間足 エリオット波動分析】

40,398 円(12/27 高値)からは、第(4)波「シンメトリカル・トライアングル」(A-B-C-D-E)における、C 波の下落に当たります。この C 波により日経平均は、24 年 8 月底に次ぐ二番底を付ける、と見込まれます。

3 月 11 日には一時 3 万 6000 円を下回りました(35,987 円)。この先も[35,777 円](B 波の半値押し水準)、[34,686 円](同 61.8%押し)などを順次、試す可能性があります。

目先リバウンドが続く場合、37,874 円(3/6 高値)付近がメドになります。

NY ダウ・S&P500



【日足 エリオット波動分析】

NY ダウは、22 年 10 月安値(28,660ドル)以来の上昇(B)波を 45,073ドル(12/4 高値)で完成し、(C)波の下落局面に突入した可能性が高い、とみています。

22 年 1 月～10 月の(A)波は 22.4%下げました。(C)波はそれと同等か、あるいはより大きな下落スケールになると思われます。試みに最高値から 22.4%下げる水準は[34,977ドル]であり、3 万 5000ドル処は中期タームの下値目標といえそうです。

今後数カ月内の下値目標としては、[37,611ドル](24 年 4 月安値)に注目です。これは「エンディング・ダイアゴナル」開始点水準です。

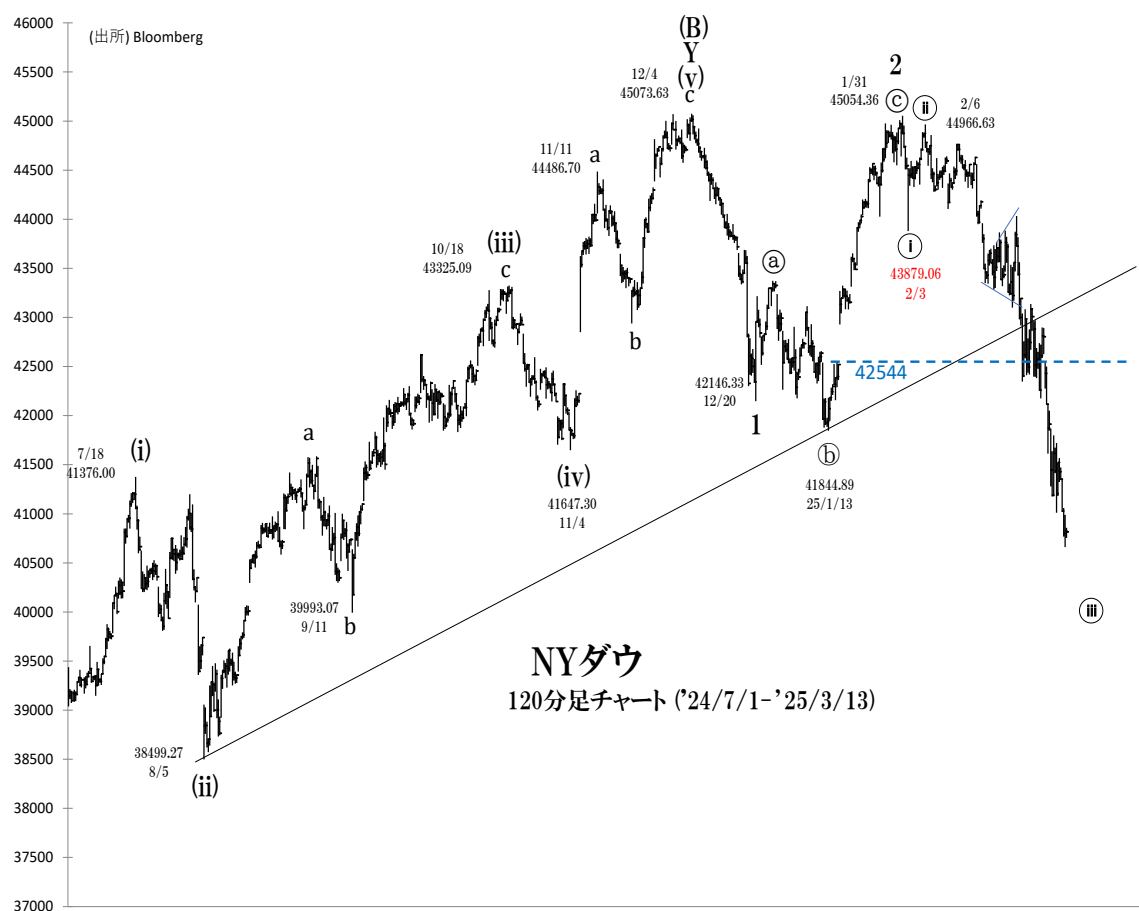


【S&P500 日足 エリオット波動分析】

3月13日に一時5504まで下げました。これにより6147(2/19高値)からの下げ率が10%超え(10.46%)となり、定義上の「調整局面」に入りました。

22年10月安値(3491)からの上昇に対し、23.6%押し水準(5520)に達したことや、一目均衡表(週足)の雲上限(5401)も視野に入り、短期的には下げ渋るかもしれません。

ただし、高値からの直線的下落はインパルス波としての特徴を十分に示しています。したがって、リバウンドがあっても一時的なものにとどまるとみられ、**中長期タームでの下げ基調は継続するでしょう。**



【時間足 エリオット波動分析】

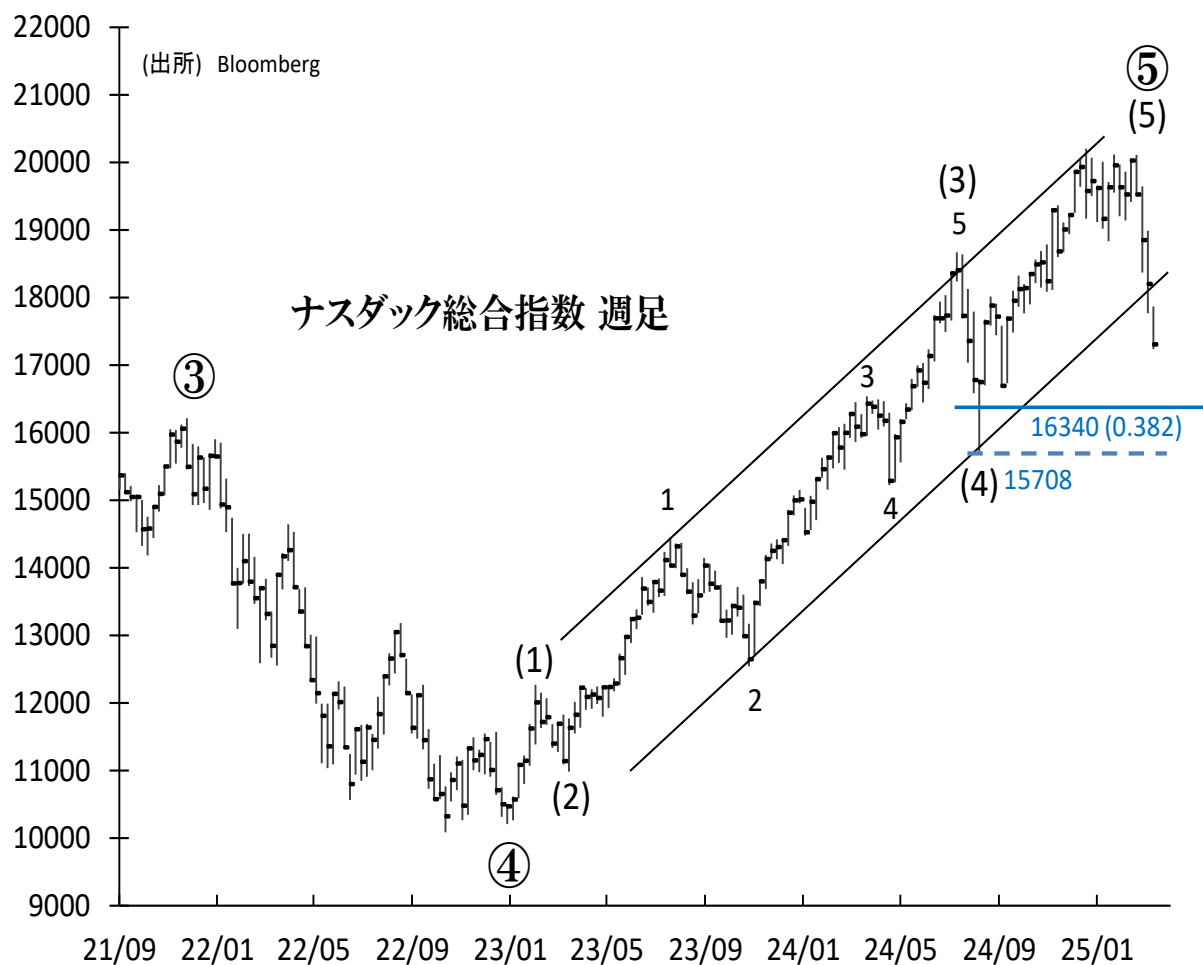
1 月高値 45,054ドルからの下げは、マイナー級第 3 波に位置付けられます。

3 月 13 日には一時 40,661ドルまで下げ、下落基調が加速してきました。高値からの下げ率は 10%に近づいています。

NY ダウのマイナー級第 3 波は、[40,318ドル]を短期的にも試す可能性があります。

[40,318ドル]…(マイナー級)第 1 波と第 3 波の下げ幅が 1:1.618 になる水準

ナスダック



【ナスダック総合指数 週足 エリオット波動分析】

ナスダック総合指数(以下、ナスダック)は、22年12月安値(10,207)以来のプライマリー級第⑤波を完了し、サイクル級の調整に入った可能性が高い、とみています。

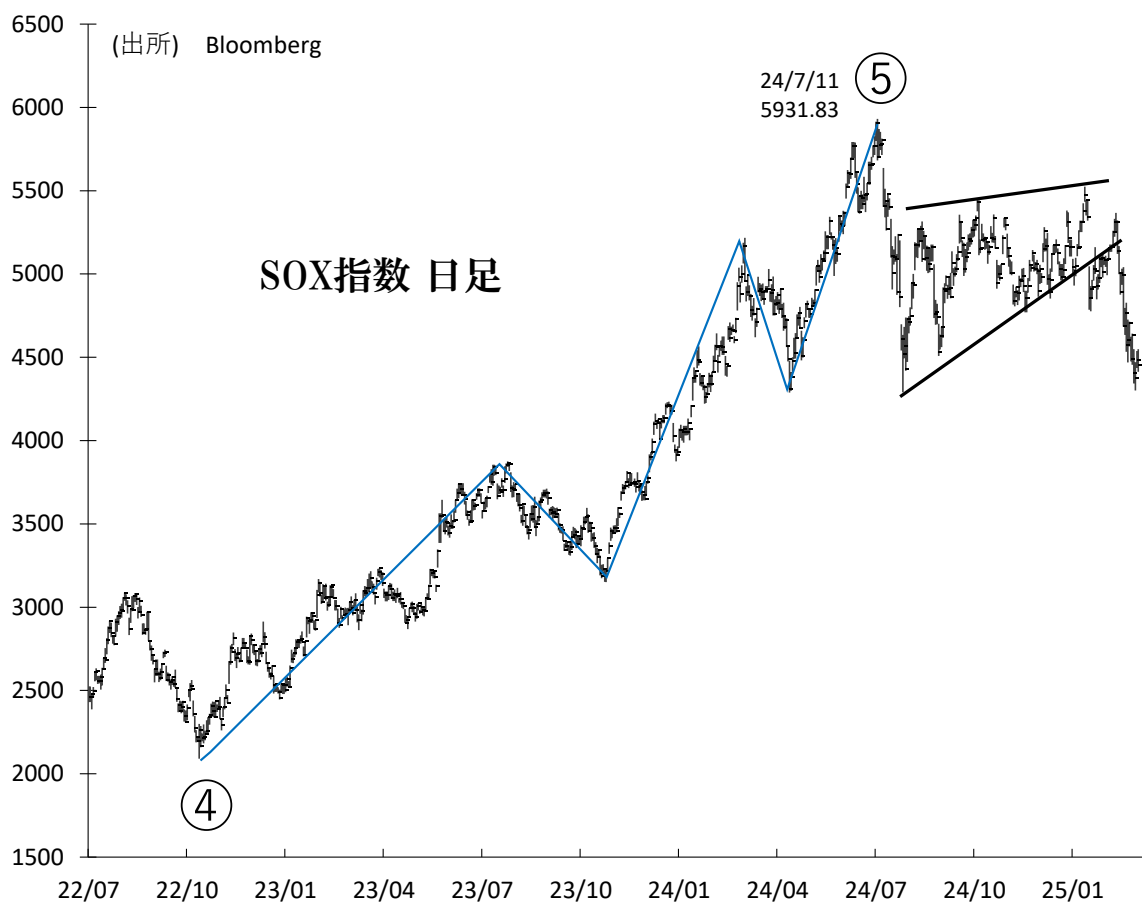
この見方通りなら、ナスダックの今後の調整規模はより大きくなり、期間も長くなるでしょう。

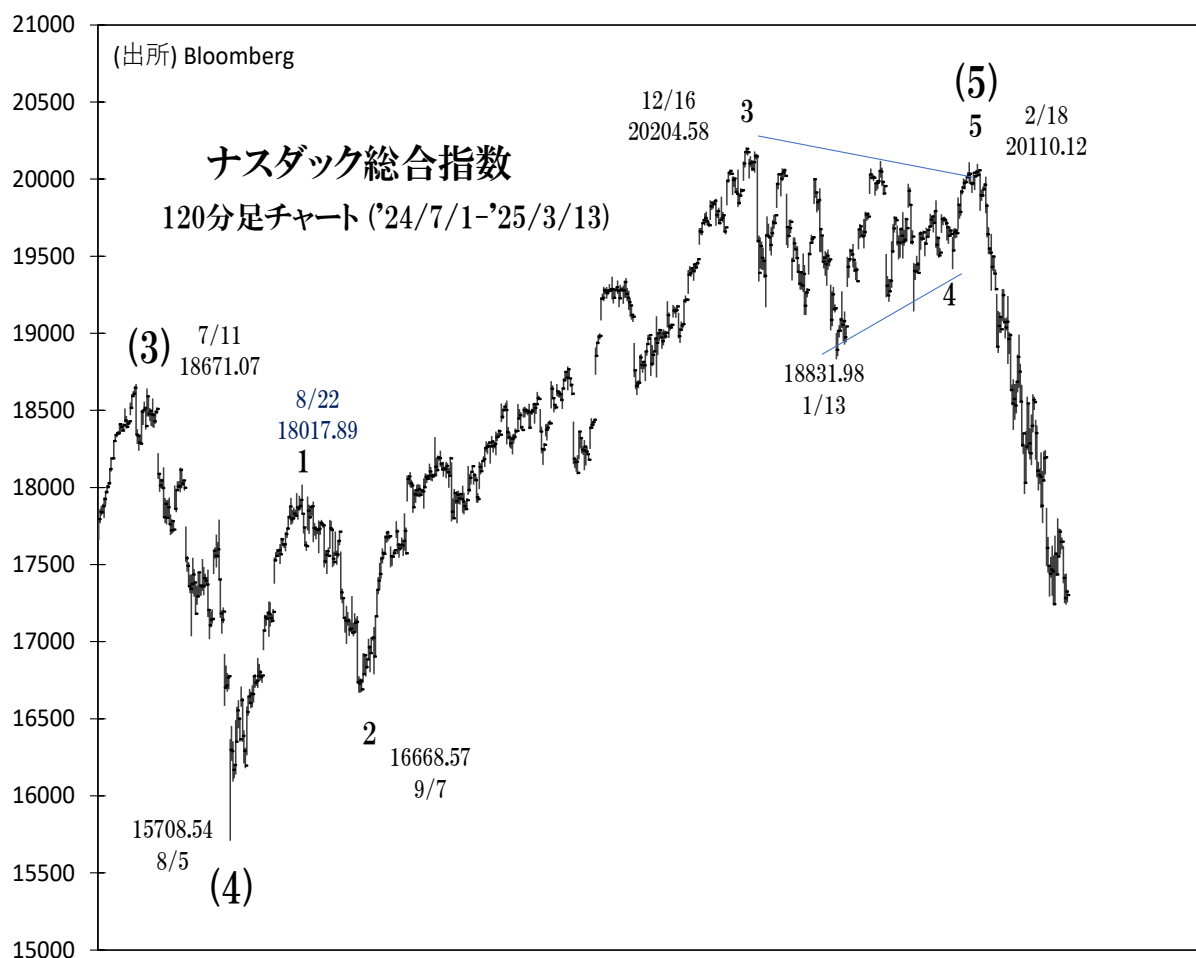
今後数カ月内にもナスダックは、以下に示す節目を目指す可能性があります。

[16,340]…22年10月から24年12月までの上昇に対し38.2%押し水準

[15,708]…プライマリー①波のレツサーディグリー(4)波安値

プライマリー④波の下げ率(37.77%)は、ほぼフィボナッチ比率(38.2%)でした。今後1～2年という期間では、**[12,527]**(24年12月高値から38%下げる水準)へ下押し可能性もありそうです。





【時間足 エリオット波動分析】

20,110(2/18 高値)を以て第 5 波による上昇は完了し—それは最高値に未達の『短縮された第 5 波 (truncated fifth wave)』でした—本格的な調整が展開しています。

直近安値は 3 月 12 日に付けた 17,238。S&P500 に先んじて安値を付けており、この安値を維持する限り、短期的なりバウンドが起きておかしくありません。

反面、このまま 17,238 を下抜くなら、次は週足分析であげた[16,340]を打診するでしょう。

米ドル/円



【月足・エリオット波動分析】

151.899 円(22/10/21)から⊗波「円高局面」が進行中です。この⊗波により米ドル/円(ドル/円)は、2028 年 4 月頃までレンジ相場を形成する、というのが基本シナリオ。24 年 7 月の 161.938 円は、15 年 6 月・125.860 円から 9 年目に付けた「8 年サイクル高値」とみられます。

22 年 10 月以来の⊗波が描くパターンとして大きくは、①[ランニング・トライアングル]、②[エクспанディッド・フラット]、これら二通りの可能性があります。

①の場合、現行 C 波は A 波安値(127.158 円)を下回リません。C 波は三波で構成され、2011 年からの上昇チャネルのセンターライン(①)が強いサポートになるでしょう。

①の水準は 136.165 円(3 月)に位置します。

②の場合は、現行 C 波(五波構成)はチャネル下限(②)を目指すような、より大きなドル安・円高が見込まれます。②の水準は 116.540 円(3 月)です。



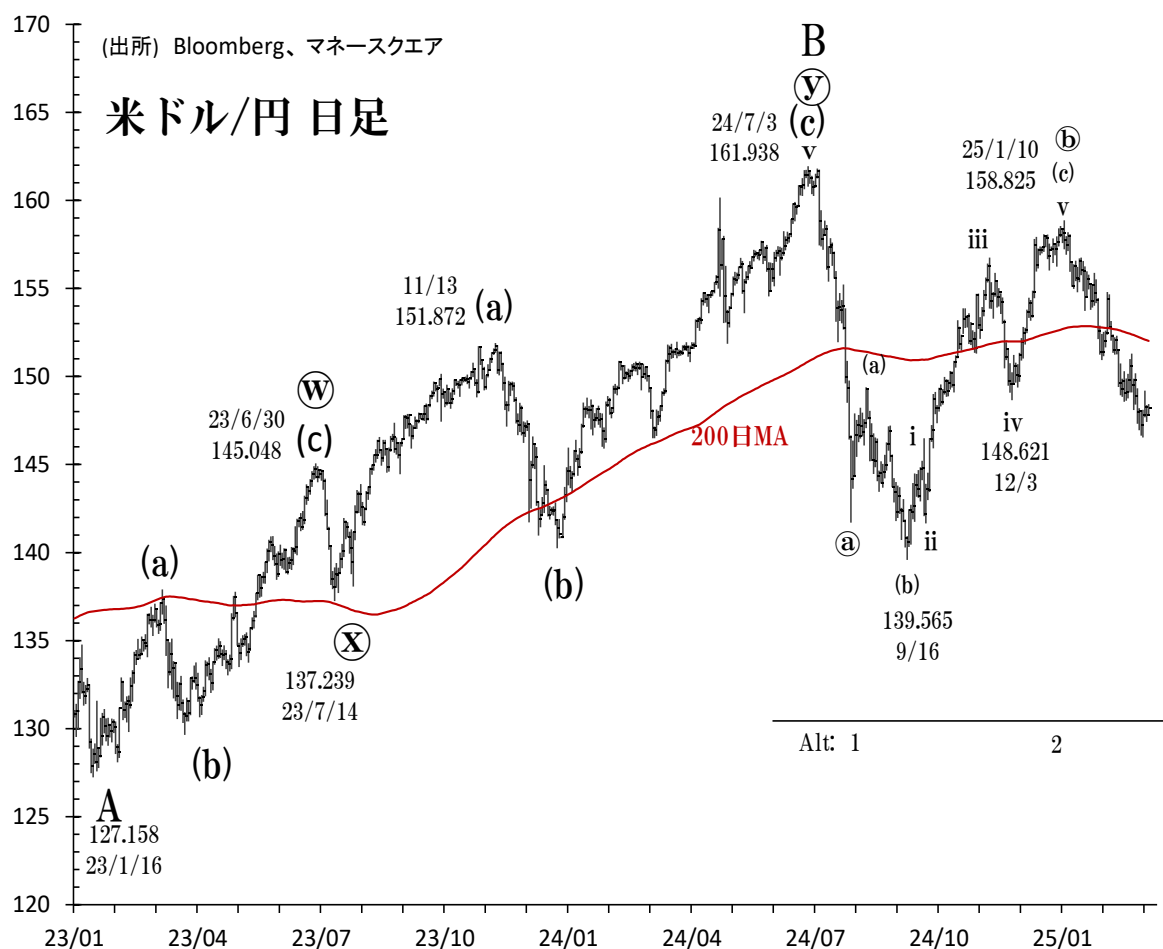
【週足 エリオット波動分析】

161.938 円(24/7/3)からは C 波によるドル安・円高トレンドです。月足分析で記した B 波[トライアングル]説によれば、C 波は三波構成(Ⓐ-Ⓑ-Ⓒ)になります。158.825 円(1/10)から、Ⓒ波によるドル安・円高が進行中とみられます。

ドル/円は今後数カ月内に、24 年 9 月の 139.565 円を下抜く可能性があります。以下の水準はⒸ波ターゲットとして要注目です。

[138.517 円]…Ⓐ波とⒸ波が等しく下がる水準

[136.452 円]…24 年 7 月から 9 月までドル/円下落幅と、今年 1 月からのドル/円下落幅が等しい



【日足 エリオット波動分析】

3月11日にドル/円は一時146.493円まで下げたものの、[146.922円] (9月からのドル/円上昇の61.8%押し水準)のサポート付近では下げ渋りの動きが続いています。

目先的な下振れが継続する場合、[143.686円] (同78.6%押し) が試されるでしょう。

IMM通貨先物市場では、投機筋による円買い持ちが過去最大に膨らんでいます。

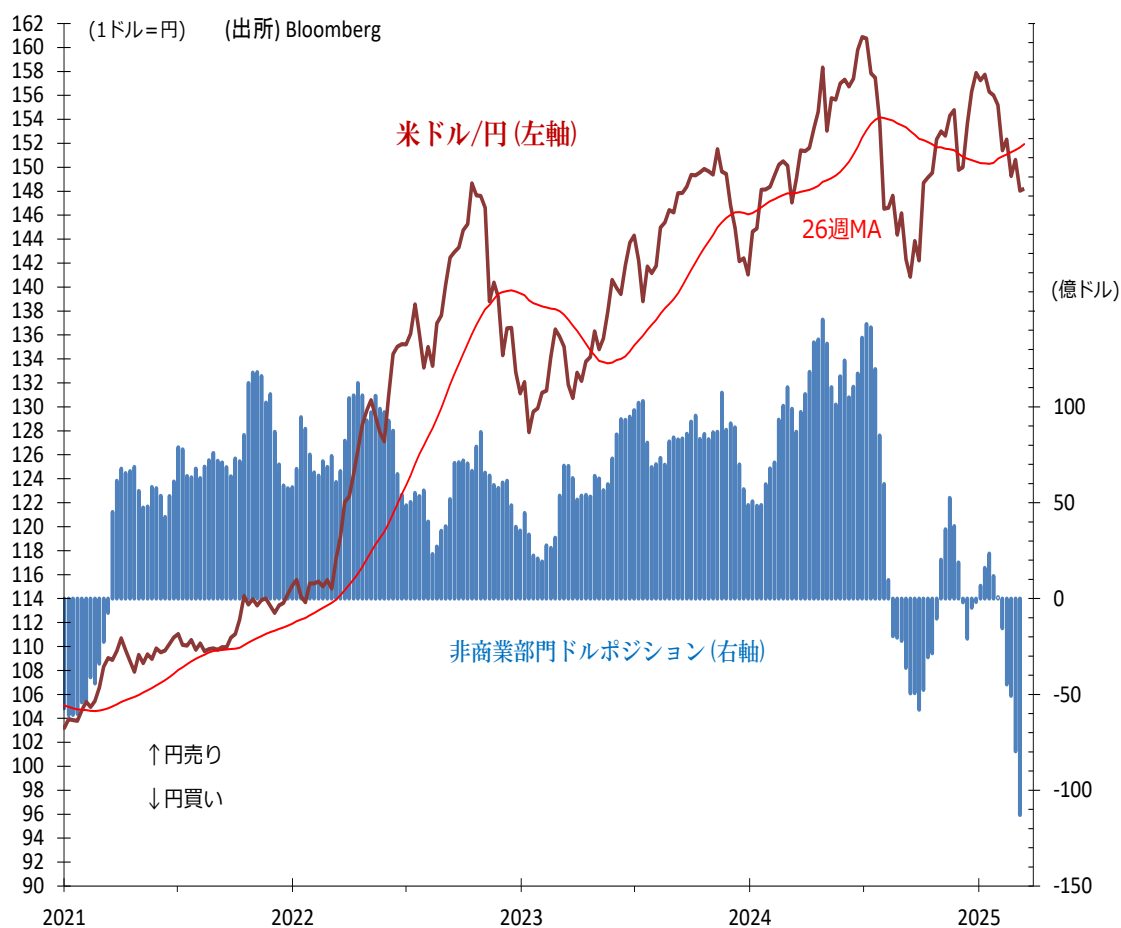
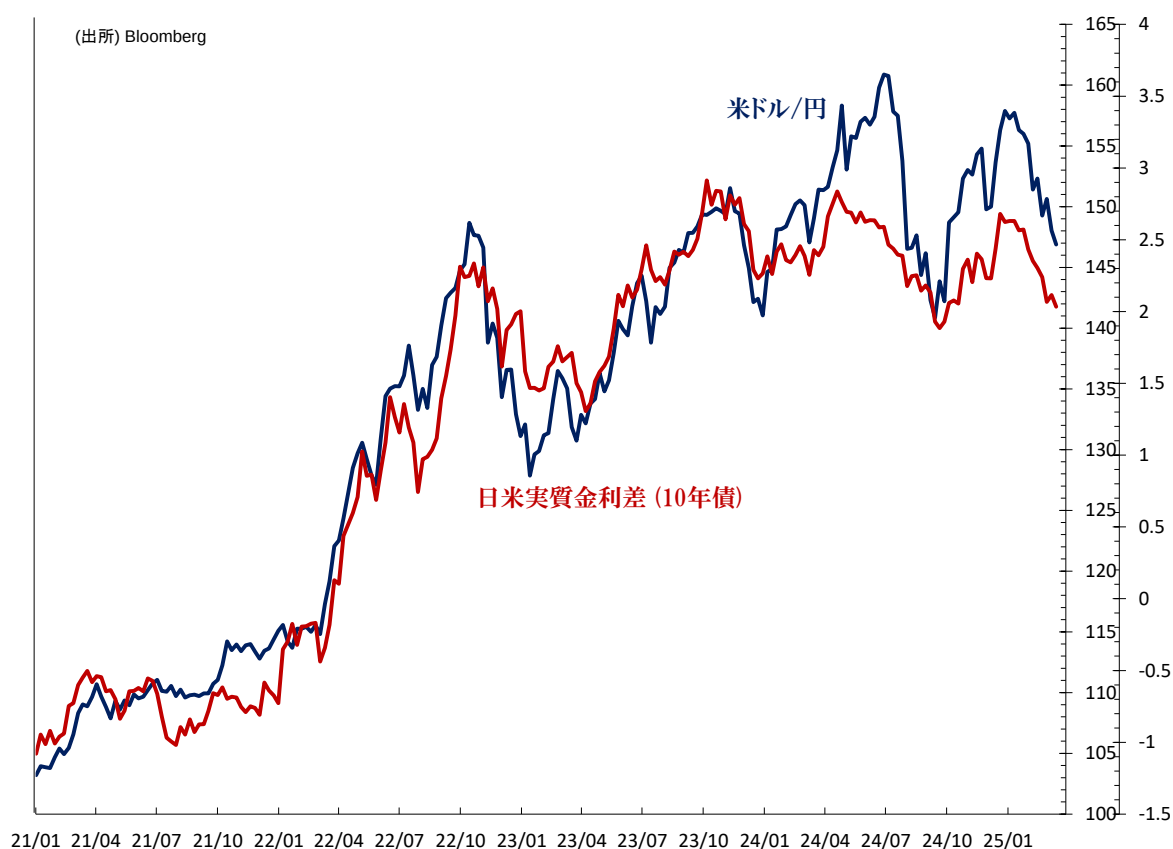
遠からず、円売り戻しによるドル/円上昇(リバウンド)も予想されます。

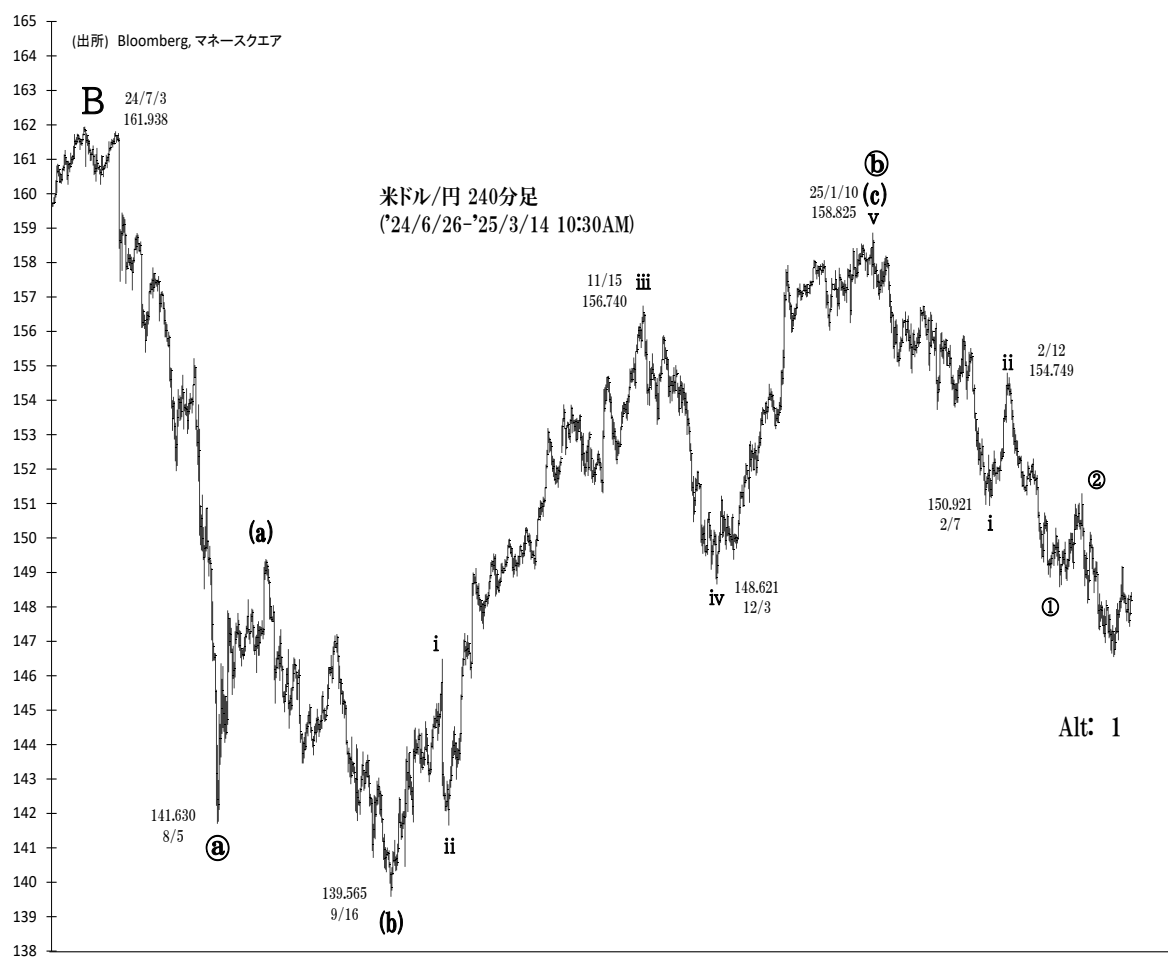
金利差からのドル/円推計値

足元、日米実質金利差からのドル/円推計値は[144.004円]です。

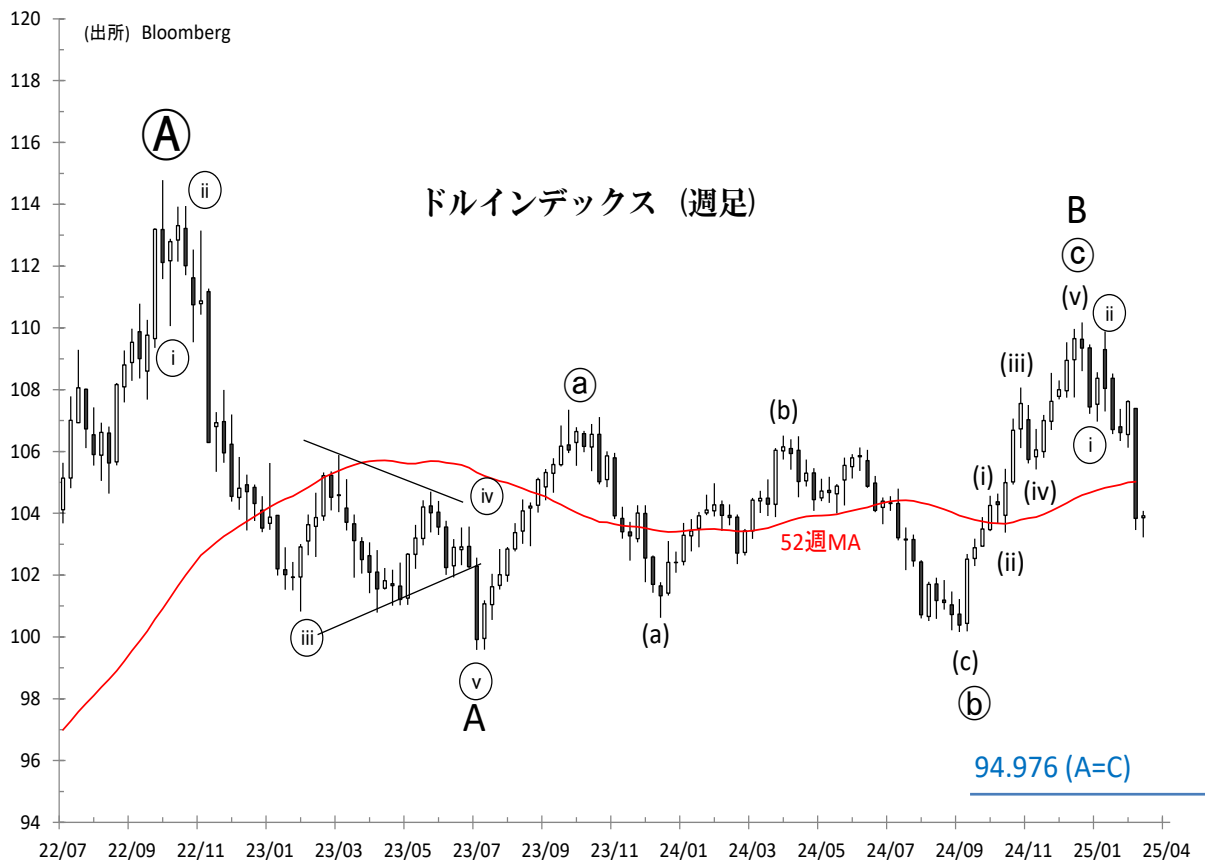
投機筋の円買い持ち高が過去最大に(2025年3月4日時点)

IMM通貨先物市場で、投機筋(非商業部門)の円買い持ち高は、前週の79.6億ドルから112.8億ドルへ、4週連続で一気に増加。データ遡及可能な1992年10月以来で最大の水準を更新しました。





ドルインデックス (ドル指数)



【週足 エリオット波動分析】

110.176(1/13 高値)からのドル安は、C 波に位置付けられます。

109.881(2/3 高値)から C-マル iii 波によるドル安が進行中です。先週はドル安が加速し、5 カ月ぶりに 52 週 MA を下抜きました。

3 月 11 日には一時 103.221 までドル安が進みました。このレベルは、B 波-©波の 61.8%押し水準 [103.984]付近のため、**リバウンドの可能性に引き続き注目です。**

基調としてのドル安は続くことが見込まれます。

22 年 9 月～23 年 7 月の A 波において、ドル指数は 10 カ月で 13.2%減価しました。C 波も同様と仮定すると、**今年 11 月頃にドル指数が[95.632]まで下げる可能性**を指摘できます。なお A 波と C 波が同幅下げるとすると**[94.976]**が得られます。

※当レポートは、情報提供を目的としたものであり、特定の商品の推奨あるいは特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。

※当レポートに記載する相場見通しや売買戦略は、ファンダメンタル分析やテクニカル分析などを用いた執筆者個人の判断に基づくものであり、予告なく変更になる場合があります。また、相場の行方を保証するものではありません。お取引はご自身で判断いただきますようお願いいたします。

※当レポートのデータ情報等は信頼できると思われる各種情報源から入手したものです。当社はその正確性・安全性等を保証するものではありません。

※相場の状況により、当社のレートとレポート内のレートが異なる場合があります。

当社サービスに関する注意事項

・取引開始にあたっては契約締結前書面をよくお読みになり、リスク・取引等の内容をご理解いただいた上で、ご自身の判断にてお願いいたします。

・当社の店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引は、元本および収益が保証されているものではありません。また、取引総代金に比較して少額の資金で取引を行うため、取引の対象となる金融商品の価格変動により、多額の利益となることもありますが、お客様が差し入れた証拠金を上回る損失が生じるおそれもあります。また、各金融市場の閉鎖等、不可抗力と認められる事由により店頭外国為替証拠金取引および店頭 CFD 取引が不能となるおそれがあります。

・店頭外国為替証拠金取引、店頭 CFD 取引における取引手数料は無料です。

・当社が提示するレートには、買値と売値に差（スプレッド）があります。流動性が低くなる場合や、天変地異または戦争等による相場の急激な変動が生じた場合、スプレッドが広がる場合があります。

・店頭外国為替証拠金取引に必要な証拠金額は、個人のお客様の場合、取引総代金の 4% 以上です。法人のお客様の場合、取引総代金に、金融先物取引業協会が算出した通貨ペアごとの証拠金率（為替リスク想定比率）を基に当社が算出した証拠金率を乗じた金額となります。為替リスク想定比率は、金融商品取引業等に関する内閣府令第 117 条第 27 項第 1 号に規定される定量的計算モデルを用い算出します。なお、証拠金率（為替リスク想定比率）は変動いたします。店頭 CFD 取引に必要な証拠金額は、取引総代金の 10% です。

金融商品取引業 関東財務局長（金商）第 2797 号

【加入協会】日本証券業協会 一般社団法人 金融先物取引業協会
株式会社マネースクエア
